

## 編集後記

言語には口頭言語と文字言語があります。全ての言語は音声をもちますが、それを表す文字をもたない言語もあります。人類の進化の過程を考えると、口頭言語だけの期間が3万年以上、文字を持つようになってからは5000年ほどと推測されています。文字言語の最大の特徴は、その記録性と一覧性です。口頭言語がその場限りの一過性のものであるのに対し、文字言語は文字が記された媒体が物理的に残っているかぎり、後世に伝わります。また、口頭言語は音声を経時的に繰り返されるため、最初に言われたことをあとから振り返って確認することはできません。それに対し、文字で記されたものは最初と最後を同時に見て確認することができます。ヒトの集団が大きくなるにつれ、時間的、空間的制約を超えて情報を広く伝えるために、文字言語が重要になってきたのは想像にかたくありません。

文字言語には文字を書き込む道具、書き込まれる媒体が必要です。この両者が時代と共に変わってきたため、口頭言語に比べると時代による変化が大きいと言えます。文字を記すための道具として、ペンや筆などによる手書きから、大量複製を可能にした活版印刷を経て、近年ではキーボードによる入力やマイクによる音声入力に加わりました。文

字が書き込まれる媒体としては、石やパピルスなどから、紙へと変化し、ここ半世紀で電子媒体が広く使われるようになってきました。このような文字を取り巻く道具の変化は、文字言語に関わる神経ネットワークにも影響する可能性があります。たとえば、古典的な純粹失読は文字形態の視覚情報が言語中枢にうまく伝わらないために生じるとされます。おもしろいことに、読めない文字をなぞって書字動作（なぞり読み）を行うと、読めることがあります。これは熟練した書字運動覚から言語中枢へつながるためと考えられています。今後、手書きの習慣がさらに減って、キーボードや音声による文字入力が増えると、なぞり読みの経路は働かなくなるかもしれません。

論文を書くことは、文字言語の持つ記録性と一覧性を最大限に生かせる行為です。本誌に掲載された自分の論文が時空を超えて伝わることを想像するのは楽しいものです。自分のみつけた臨床的知見をより多くの方に知っていただくために、ぜひ本誌を利用していただければと思います。投稿をお待ちしております。

(鈴木 匡子)

## 〈編集委員〉

|       |       |        |       |       |       |
|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 編集委員長 | 小野寺 理 | 編集副委員長 | 三澤 園子 |       |       |
| 編集幹事  | 石浦 浩之 | 漆谷 真   | 杉江 和馬 |       |       |
| 編集委員  | 今井 富裕 | 木下 真幸子 | 古賀 政利 | 櫻井 圭太 | 柴田 護  |
| 下畑 享良 | 鈴木 匡子 | 辻野 彰   | 坪井 義夫 | 中嶋 秀人 | 新野 正明 |

|         |                               |             |              |
|---------|-------------------------------|-------------|--------------|
| 「臨床神経学」 | 第61巻 第9号                      | 2021年9月1日発行 |              |
| 編集者     | 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル        |             | 一般社団法人日本神経学会 |
| 発行者     | 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル        |             | 戸田 達史        |
| 印刷所     | 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 |             | 中西印刷株式会社     |

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル  
日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>